

シリーズ！ 我が国からの議長・副議長に聞く その1

ITU（国際電気通信連合）、APT（アジア太平洋電気通信共同体）には我が国から多くの議長・副議長が選出されています。世界の情報通信放送分野での国際標準化活動や開発促進という大きな社会的使命を背負われて八面六臂の活躍をなさっています。

議長や副議長という役職に就いておられることは知っているし、その活躍は聞こえてくるが、そう言えばどのような方かは知らないし、実際に直面している苦労はどのようなことなのだろうか。こうした皆様の声にお応えするとともに、世界の発展のために尽力されている方々のサポーターを増やしたいとの思いから、Q&Aで伺った議長・副議長の皆様のプロフィールや思いをシリーズでご紹介してまいります。
(ITUジャーナル編集担当)

つがわ せいいち
津川 清一 ITU-T SG3議長（WTSA-16選出（再任））

専門領域：通信の政策、料金	● 2001年	ITU-T SG3参加
略 歴：	● 2002年	ITU-T SG3ラポーター就任
1973年 中央大学法学部 卒業	● 2004年	ITU-T SG3副議長就任
同年 国際電信電話(株)(現KDDI) 入社	● 2012年	ITU-T SG3議長就任（現在に至る）
1982、1989年 ITU全権委員会議参加	●	



—— 先のWTSA-16での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、議長に任命されたことについて率直なお気持ちは？

津川 SG3は伝統的に、計算料金のレベルとか精算の仕組みを考える実務的なSGでした。しかし、所掌範囲が通信の経済的側面とか規制の在り方に広がったため、仕事が多岐に亘ることになりました。今回のWTSAでも、なにかあるとSG3の関与が求められるようになりました。副議長の数も前研究会期の8名から13名に増えました。このように環境が大きく変わった中で議長を務めることはとても大変ですが、なんとか無事に任期を全うできればと考えています。

—— ご担当事項とご経歴、ITUとの係わり、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

津川 ITU自体とのかかわりはとても長く、1982年のナイロビ全権委員会議参加から始まっています。SG3との付き合いは、2001年からです。

—— これから議長として重責を担われるわけですが、次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えですか？

津川 通信の経済的側面とか規制の在り方に関する幅広い問題が提起されると思います。それはそれとして、SG3が本来担ってきた料金に関する日常業務の改善も忘れないようにしたいと考えています。

—— 議長としての抱負をお聞かせください。また、どのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

津川 色々な地域の間利害対立が目立ってきましたので、皆が満足できる結論を導き出せるよう議長として汗をかきたいと思います。非常に難しいことは理解しています。

—— 議長としての難しさや壁（障壁）、そうしたことへの対処方法はどうかお考えですか？

津川 各国の間を走り回って意見調整をするしかないと思っています。

—— わが国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

津川 総務省様を始めとする国内通信事業者からのご支援に感謝しています。私は日本人のSG3議長として3人目ですが、日本は先進国と発展途上国の間に立って利害を調整することに最も適した国だと思います。この役割を私の後にもつないでいくよう努力したいと思います。

—— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

津川 SG3が行っている活動は他の国際機関にはありません。このユニークな役割を生かし、口幅ったいですが人類全体に貢献したいと考えています。

—— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

津川 SG3では地域間のせめぎ合いが顕著になってきましたが、これはITU-T全体の縮図であり、将来の方向性を表す指標のようなものです。SG3の動きをフォローしていただければ、これらが予想できますので、どうかご活用ください。

【読者のための豆知識】

SG3（第3研究委員会）の活動内容：料金及び会計原則と国際電気通信・ICTの経済と政策課題



みやじ さとし
宮地 悟史 ITU-T SG9議長 (WTSA-16選出 (新任))

専門領域：動画の圧縮、画質評価、ケーブルテレビ網・モバイル回線含むネットワークを用いた映像・音声配信	1998年	ITU-T SG9参加 アソシエイトレポート就任
略歴：1995年 早稲田大学理工学研究科修士課程 修了	2006年	東京工業大学総合理工学研究科博士後期課程 修了
1995年 国際電信電話(株)(現KDDI) 入社	2008年	ITU-T SG9副議長就任
	2015年	VOD、IP放送、音楽配信事業運営
	2016年	ITU-T SG9議長就任 (現在に至る)



—— 先のWTSA-16での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、議長に任命されたことについて率直なお気持ちは？

宮地 SG9は欧米諸国から廃止が提案されていた中存続し、かつ、議長に任命いただいたことは、ITU-Tに関する様々な方々のご尽力・ご支援の賜物であり、心より御礼を申し上げたいという気持ちです。

—— ご担当事項とご経歴、ITUとの係わり、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

宮地 専門領域は、ケーブルテレビ網やモバイル回線を含む、通信ネットワークを使った映像・音声の配信技術です。現在では、KDDIのVODと音楽ストリーミングサービスの事業運営を担当しています。ITU-T SG9は1998年より参加しており、約18年間活動を続けています。

—— これから議長として重責を担われるわけですが、次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えですか？

宮地 技術標準化の観点では、ケーブルテレビ伝送技術の進化(4K/8Kの実用化にかかる周辺技術、DOCSISケーブルモデムの次世代版等)に加えて、次世代アプリケーション(VR、AR、自由視点テレビ等)の研究を進めます。さらには、昨今参加が急増している途上国に対するケーブルテレビ導入支援のためのインプリガイドやテクニカルレポートの整備も急務です。

—— 議長としての抱負をお聞かせください。また、どのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

宮地 「各地域におけるケーブルテレビ事業の発展に資する」です。ケーブルテレビ事業を取り巻く環境は、各地域において、経済的状況、並びに、放送事業とケーブルテレビ事業との関係性が様々に異なっています。SG9は、各国や地域の事情に合わせたソリューションを提供すべく活動して参ります。

—— 議長としての難しさや壁(障壁)、そうしたことへ

の対処方法はどうかお考えですか？

宮地 マネジメントチーム(議長、副議長、事務局)の一体感、マネジメントチームと参加者との信頼関係が重要と考えています。議長席から見下ろすだけでなく、レポートグループセッション等にも積極的に参加し、同じ目線でコミュニケーションを続けていきたいと思っています。

—— わが国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

宮地 ITU-Tに求められる役割が、従来の標準化(勧告策定)に加えて、技術格差の解消や技術の国際展開といった領域にまで広がってきています。わが国含む加盟国や産業界は、ITU-Tの新たな役割を理解するとともに、世界のICTビジネスの発展のためにITU-Tを適切に活用することが期待されます。

—— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

宮地 「多様な価値観を理解し受け入れる」ことです。休日は、とくにこの季節(秋冬)は、キャンプが趣味です。焚き火で暖を取り、ランタンの灯りの下で、食事をするのがリフレッシュになっています。

—— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

宮地 国際標準化活動の意義は人それぞれ異なるかもしれませんが、ここでしか得られない体験や人間関係は本当に貴重なものと思います。皆さまの積極的なITU-T参加(もちろんSG9に限らず)を期待しています。

【読者のための豆知識】

SG9(第9研究委員会)の活動内容：映像・音声伝送及び統合型広帯域ケーブル網

たかや かずひろ
高谷 和宏 ITU-T SG5副議長 (WTSA-16選出 (新任))

専門領域：通信設備に係る電磁干渉問題、過電圧・電気安全問題の研究・標準化	● 2006年	NTT東日本 技術協力センタ (トラブルシューティング部門)
略 歴：	● 2007年	ITU-T SG5参加
1995年 岡山大学大学院工学研究科 電気電子工学専攻 修了	● 2014年	電子情報通信学会・環境電磁工学研究専門委員会幹事
1995年 日本電信電話(株) 入社	● 2016年	現在、研究専門委員として活動
NTT通信網研究所		ITU-T SG5副議長就任 (現在に至る)



—— 先のWTSA-16での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちは？

高谷 多くの方からのご支援をいただき、また、ご尽力いただいたことに感謝するとともに、副議長の重責を感じつつ、自分自身にどのような貢献ができるか、考え始めているところです。

—— ご担当事項とご経歴、ITUとの係わり、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

高谷 2007年からSG5の会合に参加して以来、通信設備の電磁環境両立性(EMC)、雷防護、電気安全に関するITU-T勧告の作成に関わってきました。また、電波障害を取り扱う、IEC傘下のCISPRにおいても活動しております。



—— これから副議長として重責を担われるわけですが、次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えですか？

高谷 SG5は、より持続可能な循環型社会を形成するために、省エネや環境に配慮したICTの活用、運用方法のベストプラクティスを示していくことが重要と考えています。同様に、EMCの分野においても、より安全で効率的な電波利用を継続していくためのリーダーシップを発揮することが重要と考えます。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。また、どのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

高谷 ICTの進展によって、人の生活が便利で豊かになっても、エネルギー消費や環境破壊がその犠牲となってしまう意味がありません。ICTの利点だけでなく、デメリットについてもよく検討し、その効果的な解決方法をSG5が出して行けるように努力したいです。

—— 副議長としての難しさや壁(障壁)、そうしたこと

への対処方法はどうかお考えですか？

高谷 ICTの普及状況や進展の歴史は加盟国で様々であり、同じ課題を取り上げても、その重要性や課題解決の効果に対する考え方は様々だと思います。コンセンサスを取るためには、落としどころを早く見つけることが重要と考えています。

—— わが国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

高谷 ITUはコンセンサスが得られたものを国際標準にする機関ですので、長期的に見た利益がどの国にももたらされるように、共通的な課題を常に共有することが重要と考えますし、解決に向けては、多分野のコラボレーションが重要と考えます。

—— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

高谷 百聞は一見にしかずだと思っておりますので、まず、色々なものを見て感じるための行動(趣味では旅行)を大切にしています。世界中が平和で、どのような国、地域にも安全に旅行ができるようになってほしいです。



—— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

高谷 SG5では、環境、気候変動、循環経済に関する研究を推進します。どのSGにも関係する課題であり、ICT以外の分野とも共通の課題だと思います。SG5が、全ての人にとって有効で、わかりやすい国際標準を作っていけるようにマネージメントしたいと思います。

【読者のための豆知識】

SG5 (第5研究委員会) の活動内容：環境と気候変動